

令和4年度 感染管理対策担当看護師等連絡会東部地区感染対策向上研修会

【会場】静岡がんセンター しおさいホール

【日時】令和4年10月31日 14時～

【主催】感染管理対策担当看護師等連絡会

【内容】

1.本日の目的

2.バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)とは

3.本連絡会議の取り組みについて

4.感染対策のための自主チェックリストに対するアンケート結果

5.施設における感染対策の実際

①おむつ交換 ②正しい尿処理(尿破棄)について

6.保菌者受け入れ時の注意事項について

7.質疑応答

8.質問時の問い合わせ先

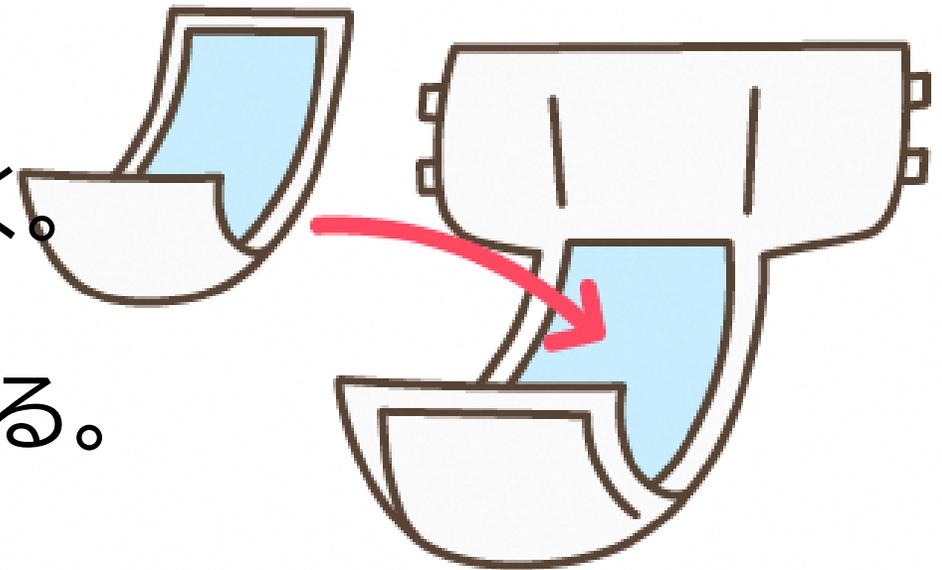
具体的な感染対策①おむつ交換

おむつ交換の感染リスク

- 便には多くの細菌が混入しているため、使用済みのおむつは目に見えなくても細菌が付着している可能性がある。
- 鼠径部に触れることは他の皮膚に触れるより細菌が伝播しやすく、手袋のまま触れたベッド柵も汚染されるという報告がある。
- おむつ交換は、新しいおむつや周辺環境・自分の着衣を汚染する可能性があるため、手指衛生の実践や個人防護具を適切に使用することが求められる。

1. 物品の準備

- 必要物品: ビニル製のガウン、ディスポの手袋、トイレト
ーパー、清拭用のタオル等、ビニール袋、新しいおむつ
や尿とりパッド(お湯(陰洗ボトル)と石けん)
- 必要であれば、塗り薬や保湿クリームなど
- 手指衛生を実施してから必要物品を
準備する。
- 使うおむつ、パッドは先に広げておく。
- パッドをおむつのギャザーの中に
入れ込むと排せつ物が漏れにくくなる。



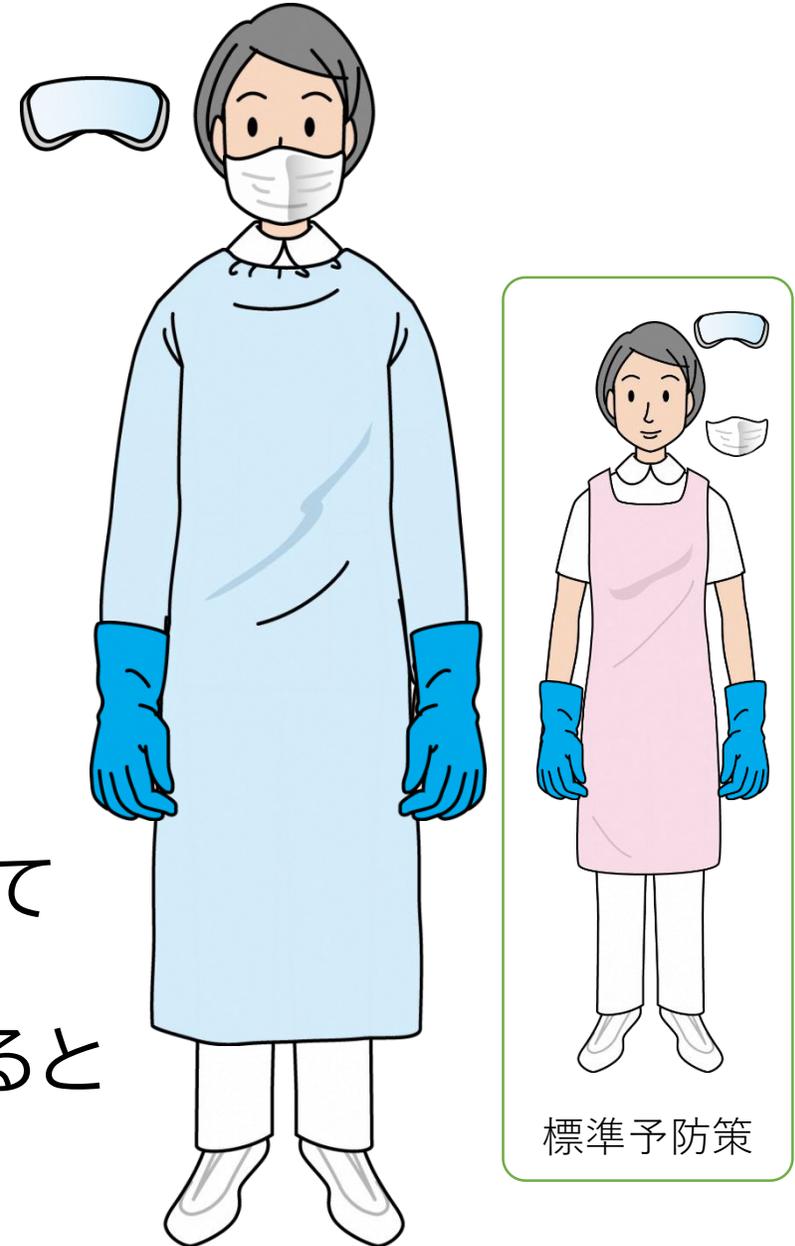
2. 個人防護具着用

- 手指衛生をしてから個人防護具を着用する
- 着用する順番

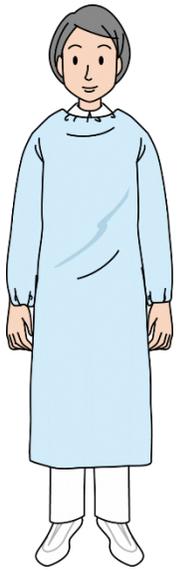
- ① マスク
- ② エプロン(袖なし)またはガウン(長袖)
(②陰部洗浄を行う時はゴーグル等使用)
- ③ 手袋

- 汚染したおむつの廃棄用にビニール袋を広げて近くに置く

※床に直に置いたり新聞紙に包んで染み出ると環境を汚染するためビニール袋を使用する



※エプロンとガウンの使い分け

<p>エプロン (袖なし)</p> 	<p><u>体幹の</u> 汚染防止</p>	<ul style="list-style-type: none">■ 気管内吸引■ おむつ交換・排泄物の処理■ 透析患者のシャント交換など
<p>ガウン (袖あり)</p> 	<p><u>体幹と腕の</u> 汚染防止</p>	<ul style="list-style-type: none">■ 血液・体液が大量に飛散する可能性のある処置■ 大量の下痢のおむつ交換■ 鋼製小物、内視鏡などの器材の用手洗浄時■ 患者を抱える等感染性物質による腕の汚染が予期されるとき■ 接触感染予防策として多剤耐性菌や角化型疥癬患者のケア等

3. おむつをまとめる

- 寝衣のズボンをおろす。
- 状態により、ベッドを汚染しないように臀部の下に防水シート等を敷く。
- 周囲を汚染しないようにおむつの汚染部分を中に丸めながらおむつをずらし、汚染していない部分を臀部に持ってくる。



※写真はビニールエプロン着用

4. 陰部洗淨

- 洗淨するときは、細菌が尿道に入らないように上から下へとお湯を流す。
- 拭くときは前から後ろに向かって拭く。
- 陰部洗淨ボトルは患者の臀部や陰部などと接触したり、汚染された手袋を着用した看護師の手で把持しており汚染されている可能性が高いため、洗淨せずに他の患者と共有しない。



※写真はビニールエプロン着用

5. おむつの回収・手袋を脱ぐ

- 外したおむつは廃棄用のビニール袋に入れる。
➤ ベッドサイドで処理することで環境の汚染を防ぐ。
- 汚染したおむつに触れた手袋をぬいで、
廃棄用のビニール袋に入れる。

【二重手袋】

手袋を二重に着用し、汚染物の処理が終わったら1枚外すという使い方は、「脱ぐ時に汚染する可能性がある」「ピンホールの可能性などがあるため、基本的には実施しない。

※写真はビニールエプロン着用

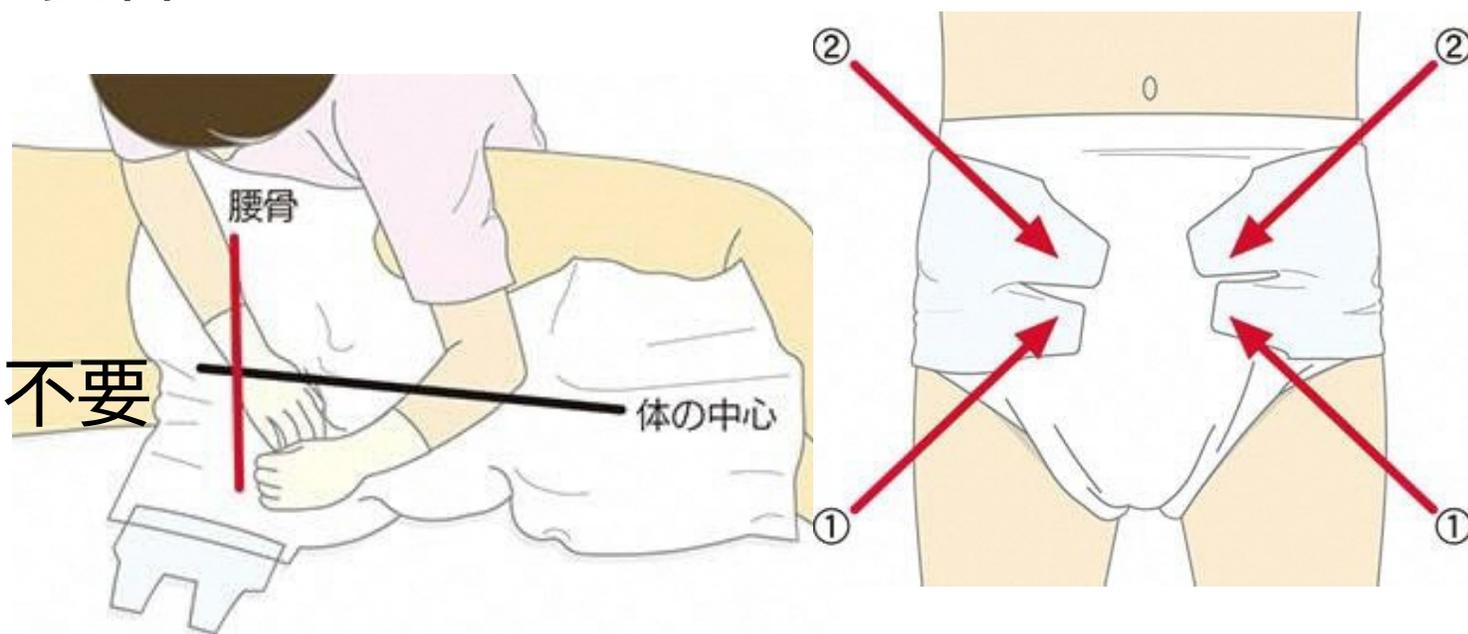


6. 新しいおむつをあてる

- 手指消毒をして新しい手袋を装着する
- 新しいおむつの中心が患者の臀部の中心になるように敷きこむ
- 防水用のシーツを丸めこむ
- 患者を仰臥位にしておむつを装着する

！ポイント！
汚染したおむつを触った手袋
で新しいおむつを触らない

➤新しいおむつをあてる時は
汚染したおむつは取り除いて
いるので通常は手袋の装着は**不要**



7. 個人防護具を外し手指衛生を行う

- 個人防護具を外しビニール袋に入れて密閉する。
- 病室を出るときに手指消毒を行う。
- 病院所定の廃棄物容器に廃棄してから手指衛生（消毒またはせっけん・流水による手洗い）を行う。
- 状況に応じて病室に廃棄物容器を設置する。

おむつ交換の手順 まとめ

必要物品の準備

手指衛生



ガウン・マスク・(ゴーグル等)手袋装着

手指衛生



汚染オムツをまとめる

陰部洗浄

オムツの除去

手袋廃棄

手袋装着

手指衛生



新しいオムツをあてる

手袋・ガウンを脱ぐ

手指衛生



廃棄物等処理

手指衛生



具体的な感染対策②正しい尿処理（尿破棄）について

正しい尿破棄の方法について

【本日の内容】

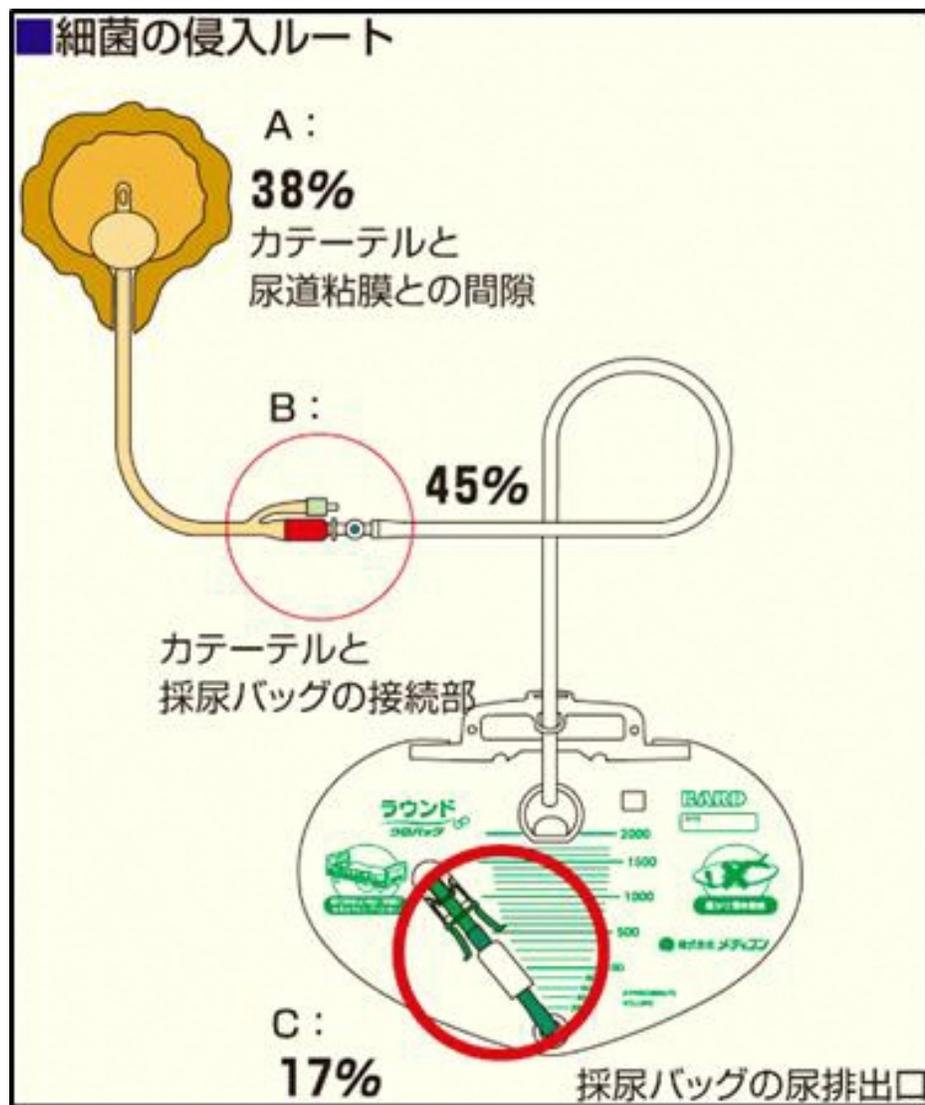
1. 畜尿の尿破棄でなぜ感染対策が必要なのか
2. 畜尿方法の一例
3. 畜尿処理(破棄)に必要な物品（個人防護具含む）
4. 畜尿処理(破棄)の手順とポイント

目標

1. 正しい畜尿処理(破棄)の方法がわかり、自分の施設で実践できる。(指導ができる)
2. 正しい畜尿処理(破棄)ができることで、VREをはじめとする薬剤耐性菌の院内感染が予防できる。



尿道(膀胱)留置カテーテルにおける感染のリスク



尿道留置カテーテルは、留置しているカテーテルから、細菌が逆行的に侵入して行くことがわかっている。

採尿バッグの排出口からも細菌侵入のリスクがある。

- 可能な限り不要な挿入は行わないことが原則である。
- 蓄尿・尿量測定も同様である。

バッグから尿を廃棄する時には、逆行感染に注意をして、廃棄することが求められる。

尿道(膀胱)留置カテーテルにおける感染のリスク

■採尿バッグの排出口を清潔に扱わないと逆行感染の原因となる。

■患者間で薬剤耐性菌の水平伝播を起こす原因となる。

薬剤耐性菌の尿路感染

- 薬剤耐性菌の多く(VREやCRE、ESBLsなど)はヒトの腸管内にいたので、尿路から逆行感染を起こし尿に保菌している患者も多い。
- 畜尿処理を清潔に実施できていないと、環境や人の手を介して細菌を伝播させて、院内感染の原因ともなる。

蓄尿および尿処理(廃棄)のポイント

- 採尿・集尿に使用する**容器は患者ごと専用**とする
- 採尿・集尿で**再使用する容器**は、**使用後は洗淨＋消毒**が望ましい
 - ベッドパンウォッシャーの熱水洗淨・消毒
 - または、洗剤による洗淨と消毒※・乾燥
- 使用ごと消毒できない採尿容器(尿器など)の保管は、周囲の環境が汚染されない**場所で、**患者別ごと保管**できることが望ましい

尿測定の方法 【例】



沼津市立病院ではVREの感染防止対策として、それまで使用していた尿ハット(ユーリンパン)をプラスチック製のリユース製品から、**シングルユースのパルプ製品**に変更した。1回使用ごとの洗浄・消毒ができないため、単回使用、その都度廃棄する。



採尿カップも患者ごとに使用することから、再使用するプラスチック製の計量カップを使用していましたが、保管場所が病室のトイレとなって、交差感染のリスクや環境汚染の原因となることから、**シングルユースのデスクップ**に変更。使用後は廃棄します。

蓄尿終了時 必要物品

1 ワゴンに必要物品を用意する

1)PPE

- ① プラスチックガウン
- ② サージカルマスク
- ③ ゴーグル
- ④ 手袋

2)集尿用(尿廃棄用)容器

3)ゴミ袋(ビニール袋)

4)アルコール綿(単包)

5)擦式アルコール手指消毒剤

6)環境清拭クロス



尿破棄 必要物品

必要物品は、ワゴン等で巡回しながら回収していくことを想定しているので、ワゴンがあるとやりやすい。



ワゴンにゴミ袋を設置する。

尿破棄 手順 : PPE装着

1		<p>部屋の前で、手指衛生を実施して、個人防護具を装着する。</p>
2		<p>このガウンはフックがあるので、親指をかけてから手袋を装着すると手首が処置時にでない。</p>

尿破棄 手順:破棄時のポイント

3



この先端が容器に触れないようにする。

患者のもとに行き、集尿作業を開始する。集尿容器を床に置き、集尿容器にウロガードの排液口が触れないようにして排液コックを開き、静かに尿を廃棄する。

4



尿の排液後排泄口のコックを閉めて、排液口から尿が飛び散らないよう静かにアルコール綿で拭き取り、排泄口を収納する。

蓄尿処理(廃棄) 手順 : PPE患者ごとと交換

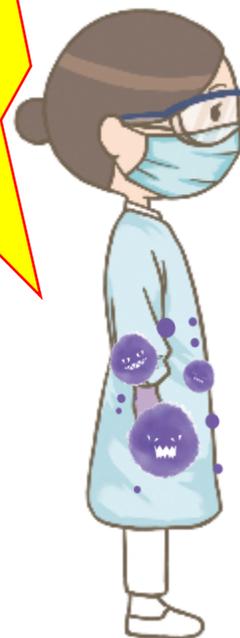
1		<p>一人の尿処理が終わって、次の患者の処理をする前に、一度個人防護具を脱衣して、あらためて新しいPPEを装着します。</p> <p>脱衣の順番 手袋→手指衛生→ガウン→ゴーグル →マスク(アイガード+マスク)→手指衛生</p>
2		<p>患者ごとに個人防護具を交換することは、交差感染のリスクを低減させるために必要です。</p>

尿破棄の交差感染あるある

患者Aさんは尿に
VREを保菌していました



着替えず患者Bさんの処置

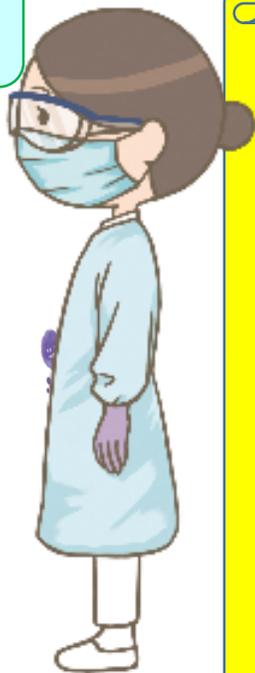


患者Bさんの尿に
VREが伝播していました

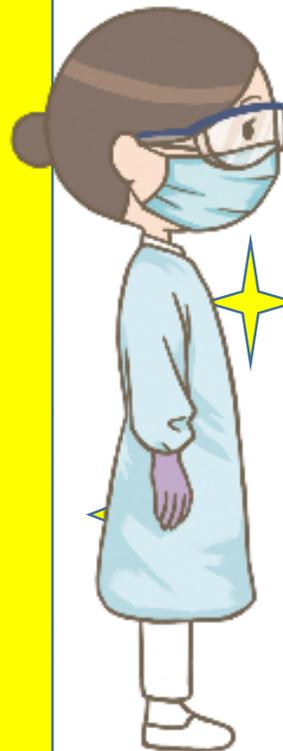


尿破棄の交差感染防止

患者Aさんは尿に
VREを保菌していました



患者ごと、个人防护具を着替える！



患者Bさんの尿に
VREが伝播しませんでした



蓄尿処理(廃棄) 手順:廃棄までの方法

集尿処理の方法は施設により違う

1. ワゴンなどで各病室から廃棄する尿をまとめて、最後に中央で廃棄する方法
2. 個別に回収して、病室から廃棄場所まで持って行き、廃棄する方法
3. 廃棄場所が病室のトイレで、その都度病室のトイレに廃棄する方法など

集尿容器の尿を廃棄するまでは他の環境を汚染させたりせず安全に廃棄できるよう施設内でルールを決めておきましょう。

尿破棄 手順:破棄の実際

もしも尿がはね飛んだ場合は、
環境クロスで拭き取る。

1



集尿容器に移した尿は、トイレまたは汚物槽またはベットパンウォッシャーに廃棄する。容器から尿が飛び散らないように、静かに廃棄する。

2



集尿容器はビニール袋に入れて感染性廃棄物する。手袋→手指衛生→ガウンの順に脱いで、次の回収場所へ移動。改めて个人防护具の装着をして尿の回収を実施する。患者一人ずつ、防護具は着脱する。

畜尿バックの破棄 手順: 畜尿袋の破棄例

1		蓄尿バック
2		蓄尿バックから尿を廃棄するときにも、集尿容器の時と同様に、静かに廃棄する。

畜尿バックの破棄 手順：畜尿袋の破棄例

3		<p>蓄尿バックは尿を廃棄直後に、尿が垂れる恐れがあるので、一度ビニール袋に入れてからゴミ袋へ持ち出す。</p>
4		<p>最終的にビニール袋に入れて感染性廃棄物として破棄します。 手袋→手指衛生→ガウンの順に脱いで、次の回収場所へ移動する。 改めて个人防护具の装着をして尿の回収を実施する。 患者一人ずつ、防護具は着脱する。</p>

蓄尿処理(廃棄) 手順:集尿容器について

【集尿容器を再使用している場合】

尿を廃棄後は、ベッドパンウォッシャーによる熱水洗浄・消毒
または洗剤による洗浄
+次亜塩素酸ナトリウム溶液(0.05~0.1%)
による消毒(30分浸漬)後に乾燥させる。

- 廃棄容器は必ず患者ごとに別の容器を使用
して回収してください。

ひとつの容器で尿をまとめて回収しない！

尿破棄 手順:片付け

5		<p>尿の回収終了後、防護具は 手袋→手指衛生→ガウン→ ゴーグル→マスクの順で ビニール袋に廃棄し最終的に、 洗浄室の感染性廃棄専用容器に 入れて廃棄する。</p>
6		<p>再度、手指衛生後に手袋を装着し、 ワゴンを環境クロスで清拭する。 手袋を外して、最後に手指衛生を 実施する。</p>

まとめ

- 尿量測定・蓄尿・尿道留置カテーテル管理は、**必要最低限**とする。
- 尿道留置カテーテルと尿バッグからの感染のリスクがあり、連続して廃棄作業を行うことで、**交差感染のリスクが高いので、患者毎に集尿容器と個人防護具を交換する。**
- 正しい蓄尿処理(廃棄)で、VREなどの院内感染を減らすことができる。